

「21 世紀図書館情報専門職養成研究基盤アーカイブ」

プロジェクトについて

2015 年 7 月

筑波大学図書館情報メディア系前身校資料について

吉田右子（筑波大学図書館情報メディア系）

1. 筑波大学図書館情報メディア系とその前身校について

筑波大学図書館情報メディア系は 1921 年に設立された文部省図書館員教習所を前身校として、ほぼ一世紀にわたる司書教育の歴史を有する教育機関である。以下にその略史を示す。

表 1 筑波大学図書館情報メディア系前身校略史

年月	事項
1921 年 4 月	図書館員教習所開設の決定
1921 年 6 月	文部省図書館員教習所開設（東京美術学校構内）
1925 年 3 月	文部省図書館講習所と改称（校舎は帝国図書館の一部使用）
1931 年 6 月	図書館講習所 10 周年記念式
1945 年 3 月	図書館講習所一時閉鎖
1947 年 5 月	帝国図書館附属図書館職員養成所として再設置
1947 年 12 月	帝国図書館が国立図書館と改称され国立図書館附属図書館職員養成所と改称
1949 年 4 月	国立図書館廃庁により文部省所管となり、文部省図書館職員養成所と改称
1964 年 4 月	図書館短期大学設置
1979 年 10 月	図書館情報大学創設
2002 年 10 月	図書館情報大学 筑波大学と統合

前身校は、文部省図書館員教習所・文部省図書館講習所（1921 年～1945 年）、帝国図書館（国立図書館、文部省）附属図書館職員養成所（1947 年～1963 年）、国立図書館短期大学（1964 年～1981 年）、国立図書館情報大学（1979 年～2004 年）となる。5 機関はそれぞれ 24 年、16 年、15 年、25 年で異なる組織へと改組され、教育機関としてはきわめて短命に終わっている。文部省や帝国図書館など日本の図書館政策に関わる中枢機関との密接な関係のもとに実施された司書教育は、約百年にわたり図書館界に重要な人材を輩出する基盤となってきた。文部省図書館員教習所から帝国図書館附属図書館職員養成所、図書館短期大学、図書館情報大学を経て図書館情報メディア研究科にいたる歴史は、日本の近代図書館史自体を体現するものでもある。なお前身校の通史は参考文献（1）（2）に概説されている。

2. 前身校関係歴史的資料保存プロジェクト

本系には一世紀にわたる図書館員養成の沿革にかかわる歴史的文献資料および実物資料が数多く残されている。しかしながらこれらの歴史的資料は、未整備であることに加えきわめて劣悪な保存状態にあるため資料の劣化が進行している。第二次世界大戦以前の図書館職員養成は、日本においては本研究科の前身校のみで行われていたため、これらの資料群の消滅は、日本の図書館情報学

研究それ自体の後退を意味する。同資料を適切な方法で保存し、それらを活用して研究を進めていくことは、日本の社会教育史・図書館専門職史にとってのみならず、日本型図書館の発展を目指すアジアの図書館界にとっても重要な意義がある。

大学アーカイブズの編成について論じた清水は Theo Thomassen のアーカイブ学の基本理念を引用しつつ、記録とは自らの発生過程に結合したものであり組織改編を経たとしても「情報と業務過程とのつながりはそのまま維持されている」ことを指摘し、「アーカイブへの業務過程の刻印」を強調している¹。本系前身校は 1 世紀で 5 回以上の改組を繰り返すなかで組織体の制度的変化はあったものの、組織体の中核的業務「図書館情報専門職養成」を保持してきたのであり、その史的展開が本アーカイブに転写されているということになる。とりわけ第二次世界大戦前に前身校が担った「図書館専門職養成」としての組織機能は、日本では他に存在しなかったため、前身校アーカイブに含まれる資料が図書館情報専門職養成史を包括的にとらえるための唯一の記録となる。

アーカイブの完成により、20 世紀から 21 世紀にわたる図書館職員／図書館情報専門職の状況を俯瞰的に把握し、館種を超えたマクロな視座から図書館史全体を通覧する形での図書館情報専門職研究が可能となる。またアーカイブ化に伴うシステム構築や情報提供・利用システムの確立により、学術データのアーカイビングに関わる図書館情報メディア研究の進展と、図書館情報学史をテーマとする海外の研究者の研究にも寄与することが予想される。このような状況を踏まえ系内の有志の教員により、本系前身校の歴史資料を保存・活用し戦前・戦後の図書館専門職養成史を実証的に再検討する学術プロジェクトを立ち上げる計画が持ち上がった。

2013 年 4 月、図書館情報専門職に関わる研究・教育に資する「21 世紀図書館情報専門職養成研究基盤アーカイブ」（以下、アーカイブと略）を最先端のアーカイブ技術を導入し構築するための予備的研究として、本研究科の前身校（文部省図書館員教習所、帝国図書館附属図書館職員養成所、図書館短期大学、図書館情報大学）の関係資料を総合的に解明することを目的とする系プロジェクト研究「図書館情報専門職の歴史的資料の保存と利用に関する総合的研究：図書館情報学アーカイブの構築に向けて」が開始された。

本プロジェクト研究は、4 つの研究テーマ（1）研究全体のデザイン：図書館史研究・アーカイブズ学・情報アーキテクチャの方法論的可能性の検討、（2）資料研究：資料整理と概略目録の作成、図書館専門職養成史の先行研究レビュー、（3）デジタルアーカイブデザイン：既存のデジタルアーカイブの情報アーキテクチャ調査・ユーザーエクスペリエンスの分析、を設定した上で調査を進め、図書館専門職養成機関による刊行物の分析およびデジタルアーカイブのプロトタイプの実施、2014 年 3 月に終了した。

本プロジェクトは 2014 年 4 月からは科学研究費プロジェクト「21 世紀図書館情報専門職養成研究基盤アーカイブ構築：図書館情報専門職の再検討」（研究課題番号：26280117 代表者：水嶋英治）へと発展的に移行し、以下の研究テーマを設定し、前身校の関連資料を対象にアーカイブ構築作業と図書館情報専門職の研究を継続中である。

（1）前身校資料の内容的検討（所蔵文献資料・実物資料の精査と電子化のための選別作業および資料の整理）および文献資料補足のための聞き取り調査）

（2）アーカイブのデザイン設計の検討（現物の整理・展示およびデジタルデータ組織化・一部のサンプル資料の電子化・多言語インターフェースの設計）

（3）対象資料の内容分析・調査研究および図書館情報学研究におけるアーカイブ活用可能性の検

討（図書館職養成史に関わる先行研究において使われた資料群の同定と、本アーカイブ資料の内容の照合）

（4）図書館情報学教育における本アーカイブ活用可能性の検討（すでに完成し筑波大学図書館情報メディア系所属の研究施設情報メディアユニオン一階において一般公開され教育的活用が進められている「メディア史に関わる常設展示コレクション」への現物資料の編入。図書館史関係教育コンテンツの再検討）

3. 「21 世紀図書館情報専門職養成研究基盤アーカイブ」の概要

アーカイブ資料は文献資料（2730 点）と現物資料（273 点）に大別される。

文献資料には、以下のような資料が含まれる。

- （1）文書類（教育・研究資料、授業教材、パンフレット、附属施設資料、名簿、私信、手稿等）
- （2）写真資料（アルバム、ネガ等）
- （3）音声資料（講義音声、行事音声等）
- （4）映像資料（行事動画等）

現物資料には、以下のような資料が含まれる。

- （1）図書館情報専門職養成に関わる用具（図書館業務用品、製本用具、資料修復用具等）
- （2）図書館情報専門職養成に関わる機器（情報検索機器、計算機、コンピュータ等）
- （3）図書館業務に関わる機器類（図書館家具、図書館機器、図書館業務用品等）

「大学文書群とは事務文書、刊行物、個人・団体文書の三つのカテゴリーを基軸として構成されるもの」であるが²、前身校の事務文書については前身校継承機関である本系事務組織が「筑波大学文書管理規定」に基づき保存・管理を行っている。本アーカイブが対象とするのは主として前身校の刊行物、個人・団体文書である。ただし前身校が図書館情報専門職養成を目的とする機関であったため、附属図書館の運営が専門職養成教育と一部結合して行われていたこともあり一部の行政文書類が本アーカイブに編入されている。

4. 資料収集の経緯

アーカイブ資料は前身校が継承してきた資料を中心とするが、前身校の設立記念行事の際、卒業生から収集した資料や本プロジェクトによる卒業生への呼びかけによって収集した資料も含まれる。

本系に残された図書館員養成の沿革にかかわる歴史的文献資料および現物資料は、資料ラベルや備品ラベル等を手がかりに判別すると、3 グループに大別することが可能である。

- （1）前身機関が教育・研究のため入手した資料・用具・機器類
- （2）前身機関に所属する教員個人が教育・研究のために入手した資料・用具・機器類
- （3）前身機関の附属図書館が業務に使用した用具・機器類

資料の大部分は図書館短期大学が閉学になり、その継承機関である図書館情報大学が筑波研究学園に設置された時に、まとめて図書館短期大学附属図書館から図書館情報大学附属図書館へ移管されている。

現物資料については、図書館情報大学開学 20 周年創基 80 周年記念特別展示会として行われた

展示会「メディアそれぞれの時代－粘土板から電子書物まで、図書館情報大学開学 20 周年創基 80 周年記念特別展示会」³のために購入されたレプリカも含まれている。

移管された資料は、前身校が系統的に収集・整理・組織化・保存してきたものではなく、また残された資料は機関が保持していた資料の一部分にすぎない。しかしながらたび重なる改組を経て本系に継承されたという事実は、現時点で残存している資料群が前身校史にとって特定の意味を持つことを意味する。以下に前身校資料の収集経緯を年表にして示す。

表 2 筑波大学図書館情報メディア系前身校資料収集経緯

年月	事項
1979 年頃から	・図書館短期大学およびその前身校資料の一部図書館情報大学附属図書館へ移管・移動されなかった資料は廃棄された
1979 年 10 月	・図書館情報大学 開学
プロジェクト発足前	
1980 年 4 月	・図書館情報大学 学生受入れ
2000 年 10 月	・図書館情報大学開学 20 周年創基 80 周年記念特別展示会開催のための前身校関連資料収集プロジェクト開始 ・前身校卒業生に前身校関連資料提供を呼びかけ ・10 月 1 日：図書館情報大学開学 20 周年創基 80 周年記念特別展示会・講演会開催
2002 年 10 月	・図書館情報大学 筑波大学と統合
2004 年 3 月	・図書館情報大学閉学【写真 1】
2009 年	・耐震改修工事開始 ・図書館情報学図書館館長室の前身校関係資料（「本学関係資料」と書かれた段ボール類）を情報メディアユニオン 1F に移動・ガラス扉付き書架に配架 ・図書館情報学図書館各所（倉庫・更衣室等）にあった前身校関係資料を情報メディアユニオン 1F に移動 ・ガラス扉付き書架に配架【写真 2】 ・ブックトラックに段ボールのまま一時配架【写真 3】
プロジェクト発足後	
2013 年 4 月	・学内プロジェクト「図書館情報専門職の歴史的資料の保存と利用に関する総合的研究：図書館情報学アーカイブの構築に向けて」開始
2013 年 4 月～ 2014 年 3 月	・前身校関係資料の整理と目録作業開始 ・12 月：図書館情報等支援室総務係管轄の倉庫に収蔵されていた図書館情報大学時代の行事等の音声資料・動画資料をアーカイブに統合 ・12 月：春日地区ゲストルームに収蔵されていた司書教諭研修関係資料をアーカイブに統合 ・前身校卒業生に資料提供を呼びかけ【参考資料 2】 ・3 月：全文献資料の概要目録の作成終了

	・3月：全文献資料を中性紙製「もんじょばこ」（特種紙商事株式会社 AF シリーズ）に収蔵完了【写真 7】
2014 年 4 月	科研「21 世紀図書館情報専門職養成研究基盤アーカイブ構築：図書館情報専門職の再検討」開始
2013 年 4 月～ 2014 年 3 月	8 月：図書館情報大学名誉教授佐藤隆司氏から寄贈された図書館短期大学元教授馬場重徳氏の個人文書をアーカイブに統合 8 月：春日地区福利厚生棟 2F 文芸部ロッカーに収蔵されていた図書館情報大学公共図書館研究サークルによる全国公共図書館調査関連資料をアーカイブに統合

本年表は 2013 年 10 月 7 日に実施した図書館短期大学卒業生・筑波大学附属図書館元職員気谷陽子氏への聞き取り調査に基づいて作成



写真 1 図書館情報大学記念碑（写真撮影：吉田右子）



写真2 ガラス扉付き書架へ配架された前身校資料（写真撮影：床井満里菜）



写真3 段ボール詰め前身校資料（写真撮影：吉田右子）

書棚上-1-a	書棚上-2-a	書棚上-3-a	書棚上-4-a
書棚上-1-b	書棚上-2-b	書棚上-3-b	書棚上-4-b
書棚上-1-c	書棚上-2-c	書棚上-3-c	書棚上-4-c
書棚下-1-a	書棚下-2-a	書棚下-3-a	書棚下-4-a
書棚下-1-b	書棚下-2-b	書棚下-3-b	書棚下-4-b
書棚下-1-c	書棚下-2-c	書棚下-3-c	書棚下-4-c

写真4 概要目録作成のための書架のマッピング（図作成：床井満里菜）

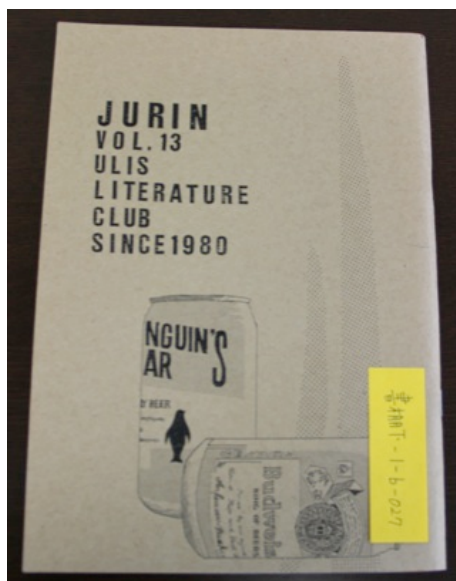


写真 5 概要目録作成のための資料への付箋貼付例（写真撮影：床井満里菜）



写真 6 概要目録作成後の書架（写真撮影：床井満里菜）



写真7 「もんじょばこ」への収蔵完了状況（撮影：吉田右子）

5. 資料紹介

- ・文部省図書館職員養成所の大学昇格に関する陳情書等

1954年1月、1962年11月に文部省に文部省図書館職員養成所同窓会名で提出された図書館職員養成所の大学昇格に関する陳情書や陳情書の草稿等。

- ・同窓会員名簿類

図書館職員養成所同窓会刊行『会員名簿』（1951年）には、書き込みがみられ事務用に使われていたと想定できる。

- ・図書館短期大学別科生のレポート類

図書館短期大学別科（大学卒業者のための特別コース）の学生のレポート類。図書館情報大学附属図書館男子職員更衣室にファイルのままの状態で置かれていたものを、段ボールに詰め春日地区倉庫に移動。図書館短期大学では卒業論文は課せられずレポートとして提出されたが、卒業研究・修士論文レベルのものもあり、図書館情報学研究者が学術研究資料として利用請求してきたことがあったため、附属図書館によってリストが作成されている。すでに段ボールに収蔵され、リストも存在するため、本アーカイブズの整理作業（目録・箱詰め）の対象としていない。

- ・図書館情報大学附属図書館の図書館システム＜LIAISON＞関係の業務資料

単独大学の図書館システムとして大学図書館システムにおいて重要な位置づけを持つものであったため、附属図書館および情報処理センターが関わったLIAISON開発に関係資料は、前進校資料とみなして、ユニオン事務室奥のガラス扉付き書架に配架した。

- ・ 図書館情報大学名誉教授竹内愼氏からの寄贈資料

竹内氏から図書館情報大学に寄贈された資料。特に貴重なものとしては、日本の図書館学確立に尽力した分類学者・加藤宗厚直筆のノートなどがある。



写真 8 図書館情報大学名誉教授竹内愼氏からの寄贈資料（写真撮影：吉田右子）

- ・ 馬場重徳文書

図書館情報大学名誉教授佐藤隆司氏より寄贈された図書館短期大学元教授馬場重徳氏の個人資料。馬場重徳氏個人資料の一部は、科研プロジェクト「戦後日本の学術図書館政策及び図書館学の展開過程：馬場重徳文書の組織化と分析」（研究代表：佐藤隆司、平成 8-10 年度）によって、整理・組織化され、筑波大学附属図書館図書館情報学図書館に「馬場重徳文書」として移管されている⁴。本アーカイブに移管されたのは、筑波大学附属図書館に移管されなかった資料すべてである。



写真 9 馬場重徳文書移管前 (写真撮影：吉田右子)

6. 参考文献

- (1) 図書館情報大学同窓会橘会八十年記念誌編集委員会『図書館情報大学同窓会橘会八十年記念誌』図書館情報大学同窓会橘会八十年記念誌編集委員会, 2002, 262p.
- (2) 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科編『図書館情報大学史：25 年の記録』,筑波大学大学院図書館情報メディア研究科, 2005, 372p.

7. 本プロジェクト関連研究・記事

2015 年 3 月現在、本プロジェクトに関連する成果研究および関連記事には以下のものがある。

- (1) 宇陀則彦, 松村敦, 阪口哲男, 三森弘, 水嶋英治, 逸村裕「21 世紀図書館情報専門職養成研究基盤アーカイブ構築に向けた情報アーキテクチャに関する一考察」(2013 年 9 月 27 日於筑波大学)
- (2) 吉田右子, 白井哲哉, 大庭一郎, 原淳之, 平久江祐司, 毛利るみこ「図書館専門職養成史の批判的再検討：図書館情報学とアーカイブズ学の方法論的統合の可能性」第 61 回日本図書館情報学会研究大会 (2013 年 10 月 13 日 東京大学)『2013 年日本図書館情報学会研究大会要綱』p. 89-92
- (3) Norihiko Uda, Yuko Yoshida, Tetsuya Shirai, Construction of the 21st Century Archives for the Research Foundation of the Library and Information Professions and Education: Towards methodological synthesis of library and information science and archival science, Japanese Association for Digital Humanities Conference 2014, University of Tsukuba, Japan, September 19-21, 2014. (poster session)

(4) 吉田右子「図書館情報大学の歴史資料の収集事業について」『橘会会報』第16号, 2014, 3

参考資料1 資料移管同意書

資料移管同意書

資料名：〇〇文書

このたびは、筑波大学図書館情報メディア系内の「21世紀図書館情報専門職養成研究基盤アーカイブ構築プロジェクト」における「筑波大学図書館情報メディア系・図書館情報学アーカイブ」構築に際し、資料提供にご協力くださり、ありがとうございます。

移管された資料については、以下のように取り扱います。

記

1. 筑波大学図書館情報メディア系は、移管された資料を永年保存するように努めることとする。
2. 移管された資料の選別の過程で、当該資料の利用・保存が困難であると判断された資料については、廃棄することがある。

上記の条件で「筑波大学図書館情報メディア系・図書館情報学アーカイブ」に資料を移管することに同意いたします。

年月日：____年____月____日

寄贈者

氏名：_____

受領者

職・氏名：筑波大学 図書館情報メディア系長_____

参考資料 2 同窓会会報を通じた卒業生への資料寄贈の呼びかけ

卒業生のみなさまへ：前身校の資料を探しています！

図書館情報メディア研究科では、一世紀近くにわたる図書館職員／図書館情報専門職養成の中で使われてきた、道具や機器、文献など専門職養成の歴史を物語る資料を引き継いでいます。残念ながらこれらの歴史的資料は、未整備であることに加えきわめて劣悪な保存状態にあるため資料の劣化が進行しています。このたび図書館情報メディア研究科の有志の教員は、図書館員養成にかかわる資料の保存とそれらを活用した研究を進めて行くためのプロジェクトを立ち上げました。

これを機に、図書館養成史資料の充実を計るため、筑波大学情報学群知識情報・図書館学類、大学院図書館情報メディア研究科およびその前身諸学校の卒業生のみなさまからも広く関連資料のご提供を募ることになりました。前身校関係資料をお持ちの方は、下記の要領で資料をお送りいただきますようお願い申し上げます。なお資料の送料はご提供者に負担していただき、資料の返却はしないこと、お礼状等は省略させていただくことをあらかじめご了承ください。また貴重資料などにつきましては、現物の代わりに写真をお送りいただいたり、こちらから出向いて撮影させていただくことも可能です。

みなさまからお寄せいただいた現物資料・文献資料につきましては、図書館情報学専門職に関わる一次資料として、本学群・研究科の図書館情報学教育・研究に多面的に活用していく計画です。ご協力よろしくお願いいたします。

記

- (1) 収集対象とする資料：前身校に関する現物資料（図書館職員養成で使われた用具・機器・授業で使われた教材など）・文献資料（講義資料・講義録・講義中の写真・サークル活動の記録など）
- (2) 送付先：〒305-8550 つくば市春日 1-2 筑波大学春日キャンパス 吉田右子
- (3) 締切：2013 年 8 月 31 日

ご不明な点は以下にお問い合わせください。

〒305-8550 つくば市春日 1-2 筑波大学図書館情報メディア研究科 吉田右子
FAX:029-859-1076
yyoshida@slis.tsukuba.ac.jp

出典：『橘会会報』2013 年 6 月

¹ 清水善仁「組織体の機能構造とアーカイブズ編成—大学アーカイブズを中心に」国文学研究資料館編『アーカイブズの構造認識と編成記述』京都、思文閣出版、2014、p. 205.

² 清水善仁、前掲書、p. 203.

³ 『メディアそれぞれの時代—粘土板から電子書物まで、図書館情報大学開学 20 周年創基 80 周年記念特別展示会』つくば市、図書館情報大学発行、60p.

⁴ 『戦後日本の学術図書館政策及び図書館学の展開過程：馬場重徳文書の組織化と分析』つくば、佐藤隆司、1999（科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果報告書；平成 8-10 年度、研究課題番号: 08680423、研究代表者: 佐藤隆司）